

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092000037		
法人名	医療法人 裕紫会		
事業所名	グループホームあがら花まる	ユニット名:	花まる
所在地	和歌山県御坊市藤田町2118番地6		
自己評価作成日	平成23年2月8日	評価結果市町村受理日	平成23年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①利用者本位と言う立場に立って、スタッフが動いているということ。ゆとりのあるケアを職員が心がけている。また、家庭的な部分も大切にしており、利用者との信頼関係作りも大切にしている。「あれをしてはダメ。これをして下さい。」ではなく、本人の言動には意味があり、常に「なぜ」という視点を持ち、根拠のあるケアが出来るように心がけている。</p> <p>②地域の方々に親しみをもっといただける施設を目指しています。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokohyo-wakayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3092000037&amp;SCD=320">http://www.kaigokohyo-wakayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3092000037&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成23年2月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>静かな住宅地の中にある平屋造りの地域密着型複合施設の中にあるホームである。紀州材をふんだんに使い温もりのある雰囲気と採光に配慮された住環境である。本人の行動には全て理由があることを職員は十分認識し「行動指針」に基づいてケアを行っている。職員自身がそのケアの根拠を自覚し、次につなげてゆくよう日々話し合いの中で伝え合っている。地域との関わりを大切にすなかで、様々なボランティアの協力が得られており、地域へも出向いて交流をつみ重ねている。入居者の個々の生活スタイルを大切にしながら今までの生活と変わらないような支援をしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当施設の理念として、“あなたがあなたらしくある暮らし”とあるように、家庭的な環境の中、住み慣れた地域の中で認知症になっても暮らし続けられるよう支援している。	施設の理念とは別にグループホーム独自の理念を作りあげており、毎朝職員で黙読している。理念と行動指針に照らし合わせたケアが出来るよう全職員で日々取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方達との交流の為、茶話会を催したり施設のイベント等参加していただけるよう積極的に利用者との関わりの機会を作っている。	職員が地域へ出向くことで地域住民に受け入れられ、交流が広がってきている。ピアノ演奏を聴きながらの茶話会やボランティアの協力で一緒に花を活けたりしており、小学生や幼稚園児の訪問も受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政や地域包括支援センターの力を借り、地域の方々に介護や認知症の勉強会を開催している。また、地域の幼稚園や小学校の総合学習の授業に協力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、当事業所における活動内容や入居者との関わりの他、地域として取り組んでいきたいことや、地域で支える認知症高齢者への理解の普及活動について意見交換を行っている。	運営推進会議は、区長、民生委員、市担当者、包括支援センター職員、家族代表で二ヶ月毎に開催され、入居者もお茶を出す係として参加している。活動の報告や、感染症・災害についての学習が幅広くなされている。	会議に出席していない家族の意見も運営に活かせるよう、家族同士の連携を深めることにも期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設の透明性を図るためにも市への報告や相談を出来るだけ足を運んで行うようになっている。また、施設への苦情や相談については市と相談しながら対応するように努めている。	市への相談や報告は、頻繁に足を運んで行っている。市の活動のモデル地区となっており、認知症サポーター養成講座や啓発活動への参加の呼びかけが市よりなされる等協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を自施設にて行い、身体拘束を行うことで利用者にとっての身体的、精神的弊害について学び、拘束のないケアに取り組んでいる。身体拘束廃止委員会の活動や研修に参加している。	職員は内外の研修に参加し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。家族には、契約時に身体拘束に対し説明をしているが、安全面に不安を持つ家族もあり、時間をかけながらきちんと説明し、理解を求めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会による内部研修を実施し周知活動を行っている。現在虐待と思われる行為は見受けられていない。また、そういった外部研修にも積極的に参加している。		

【事業所】グループホームあがら花まる ユニット名:花まる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用されている利用者がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時解約時には説明させていただき相手に合わせた話し方や言葉を使うようにしている。また、疑問点に対しても納得していただいた上で契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の方々には、こちらから先に要望や苦情、不満等がないか伺いするように心掛けています。そういった意見があれば早急に対応をしています。また、職員に直接言い難い内容などは、玄関先に設置しているご意見箱等もご利用していただけるようにしている。	家族に対してもきめ細やかな対応に努め、意見を伺うようにしている。また、年一回の家族アンケートを基に改善に努め「便り」に載せ報告している。玄関先に意見箱も設置しているが、口答で意見を聞くことが多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例のグループホーム全体会議の場で、各職員からの意見の吸い上げを行ったり、個別に面談を行い運営に関する事や現場サイドとしての提案を聞く機会を設けて反映させたりしている。	2ユニット合同の意見交換会を月1回開き、その場で職員より業務改善や運営に関する意見が出されている。体調不良で休む場合のサポート体制等、会議で出された事が改善に繋がっている。	着替えや休憩に使用できる職員用の部屋がないことが意見として上がっているが、具体的な改善案は出されておらず、今後期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	利用者の状態に応じて勤務時間等柔軟に対応し調整している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれ年間研修計画をたて、職員のスキルアップを図りケアの質の向上に努めている。また、随時外部研修への参加も呼びかけ参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の福祉施設で働く職員に向けた研修会に積極的に参加し、同業者との交流の機会を作っている。また、外部研修における相互実習には、他施設との違いを肌身に感じ、自施設でのサービスの質を向上させられるよう取り組んでいる。		

【事業所】グループホームあがら花まる ユニット名:花まる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にケアマネジャーやご家族に事前に情報収集を行い、細かな事はセンター方式の様式にてご家族より情報をいただくようになっている。また、ご本人とも面談を行い、本人からの視点でアセスメントするようになっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から利用者が入所されるまでの間、ご家族の苦悩や葛藤にも配慮しながら信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際は、施設として可能な限り柔軟な対応を行い、必要に応じて他のサービス利用も含めて検討し対応している。また、関係機関やケアマネジャーと連携し、いくつかの選択肢を提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の得意分野で力を発揮できるよう、調理や洗濯等して頂き、お互い感謝の気持ちを持つてあうような関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等、ご本人の近況報告を行い、入居者を一番理解しているご家族と一緒にご本人を支えていきたい旨を伝え協力して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の意向に沿い、可能な限り外出の支援も行なっている。また馴染みの人との関係を断ち切らないよう、手紙や電話での交流も行なっている。	入居時に、今までの馴染みの関係等をしっかりと聞き、途切れない関係を作り上げている。馴染みの美容院や喫茶店に出掛けたり食材も以前から行きつけた店に買いに行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が共に助け合い支えあって暮らすことができるよう職員が間を取り持ち支援している。		

【事業所】グループホームあがら花まる ユニット名:花まる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても困ったことがあればいつでもご相談して頂けるよう、日々の関係性を大切にしている。また、退所時には施設で生活していた写真をお渡しし、いつまでもよい思い出になっていただけるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本情報や入所後の生活パターン、ご本人との会話の中で希望や意向の把握に努めている。また、ケアプラン説明時に、再度希望を確認している。	センター方式を活用し、一人ひとりの思いや意向を職員間で共有している。本人の言葉の意味を考え、言葉の出ない人には表情を見て考え、職員同士の連携をとりあって本人に添ったケアを実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人からの聞き取り、ご家族からの情報提供をもとに、ご本人の暮らしぶりを知り、その人にあったサービスの提供に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活シート、看護記録、等の活用により、その人の視点で利用者理解ができるように努めている。また、独自のフローチャートなどを活用し日々の健康状態や活動が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人からは日常の会話の中で、ご家族からも来所時や電話での連絡の際に、それぞれの意向を聞き取りしている。また、職員間ではカンファレンス等での話し合いをもとに計画に反映している。	家族からの聞き取りや、職員の毎日の申し送り、本人の思いを反映させた介護計画を作り上げている。毎朝ミニカンファレンスを開き、現状に即しているか確認し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間の時間軸にした生活シートを活用し、一人ひとりの日々の様子を個々に記録し、職員間の情報の共有に活かしている。また、個々の細かなケア内容については、月単位のフローチャートを活用し、ケアができているか確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族による外出・外泊支援や職員によるその時々々の要望に応じた支援、また併設の認知デイや小規模多機能ハウスとの交流もあり、柔軟な支援をしている。		

【事業所】グループホームあがら花まる ユニット名:花まる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の小学校との交流があったり、近隣の幼稚園とはお互いの夏祭りを通じて行事への参加を呼びかけあっている。消防署とは消防訓練での指導及び火災時についての説明を受けたり、地域の子どもの安全な避難場所として、きしゅう君の家として施設を活用している。地域のボランティアにも協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族共にかかりつけ医の必要性を理解していただき、かかりつけ医を指名して頂いている。また、その医師と電話やFax、報告書等で連携を図り、必要であれば往診して頂いている。	入居時に希望するかかりつけ医を指定してもらい、受診は、家族が行っている。受診の際には日々の状態変化を報告書にまとめ家族に渡している。説明が難しい時や緊急時は職員が連れて行くこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携で専属の看護師を配置し、入居者の日々の健康管理上の相談を持ちかけアドバイスをもらっている。また入居者の健康管理を行ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当の医師や看護師、地域医療連携室と連絡を取り合い、カンファレンス等を通じて早期に退院できるような支援、または退院後の支援についての相談を随時している。ご家族とも情報の交換を行ないながら、退院に向けての支援について話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けてのあり方として、かかりつけ医、施設看護師と連携を図りながら看取り指針をたてることとしている。また、日頃から入居者の終末期をどのように迎え過ごしていただくかをご家族と適宜話し合っている。	契約時、家族に説明し話し合っている。重度化した時は、看取り計画書を基に、家族と、医療連携している看護師や医師を交え、話し合いの機会を多く設けて方針を共有し、家族の不安を除きながらチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成し、定期的に見直しを図っている。また、研修を実施しており、AEDの使用方法も取り入れている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回消防訓練を実施し、訓練している。また、緊急連絡網を作っており、各職員には役割分担を配置し、混乱がないよう取り組みをしている。また地域の方々にも協力体制を確立している。	入居者も参加し、実際に消火器も使いながら消防訓練を年三回行っている。市の協力もあって、地域の方々との非常災害時の協力体制の連絡網も作りあげた。災害時の備蓄も確保している。	地域の非常災害時の協力体制の連絡網が出来たので、それを使って近隣の人々を交えての災害訓練を実施できることを期待する。

【事業所】グループホームあがら花まる ユニット名:花まる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを個人と捉え、尊厳を保ち、プライバシーを損ねることがないように心がけている。記録や情報に関しては、決められた場所に保管し、漏えいしないようしている。	職員は常に携帯している「行動指針」に基づいて、一人ひとりの尊厳とプライバシーを損なわないよう気をつけている。職員間で気付いた点は注意し合いながら行動している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に職員の考えや価値観を押しつけないように指導している。一人ひとりの思いや希望を自由に表出できるよう一対一でのコミュニケーションの時間を多く作るようにしている。その際は、傾聴することを徹底している。ご本人の自己決定を尊重し、柔軟な対応で有意義な生活を送って頂けるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のすべての希望にそって支援はできていないが、個々の生活パターンや思いに合わせられるよう個別ケアに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後のスキンケア、顔のお手入れ、化粧等身だしなみがきちんとできる支援を行っている。行きつけの美容院に行かれる方、また訪問美容といった柔軟な対応をしている。衣類も本人に選んでいただくよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みについては、その方が嫌いなメニューの際は、その方のみ違う物に変更するなど、臨機応変に対応している。また、施設で作成した料理写真から献立を選んでもらったりも実施している。食後も食器洗いや後片付け等手伝いもしてくれている。	献立作りから食材の買い出し、盛り付け、片付け等、個々の能力に合わせて行っている。職員も一緒になって食事を楽しんでいる。箸や茶碗、湯飲み等は、なじみの物を使い、和やかに食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病、腎臓病といった利用者もいる中で、栄養士に助言をいただいたりし、食事のバランスを考え、一人ひとりの状態に合わせて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自室に戻られる際に口腔ケアを行い、口腔内を清潔に保つよう支援し、夜間は口腔ケア後入れ歯洗浄剤で清潔を保つようにしている。また、専門医の対応が必要な場合は、ご家族に相談した上で、歯科受診や歯科医に往診して頂くなどの対応をとっている。		

【事業所】グループホームあがら花まる ユニット名:花まる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意が薄れている方については、排泄の失敗によって自尊心が傷つかないように、さりげなく前誘導を行い失敗をしないよう対応している。(利用者個々の排泄パターンを周知)。おむつについての取り組みは、可能な方については綿のパンツにパットのみで対応している。	「オムツゼロ作戦」を掲げ、定期の交換、清潔に心掛けている。職員が記録しやすい記入方法に改善し、皆が排泄パターンを把握し、声かけにも気をつけ、併せて水分摂取にも気を配っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来る限り、下剤の服用をせず、起床時に冷牛乳を飲用して頂き。おやつ時にヨーグルトを出したり、腹部マッサージ、適度な運動を行う等便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の誘いは、拒否される方は無理強いせず時間に経ってから再度声かけしたり、その対応にも工夫している。また、入浴剤等使用し視覚や嗅覚で入浴の時間を楽しんでもらえるようにしている。	バスタオル、シャンプー、ボディーソープは、それぞれ自分の物を使用し、自由な時間帯に入浴出来る支援をしている。嫌がる人には声かけやタイミングを工夫したり、足浴、手浴をし、個々に添った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	可能な限り日中での活動を促し、活動レベルを高めて生活リズムを整えるよう努力をしている。また、寝つきが悪かったり不安な状態時は、職員が傍に寄り添い、温かい飲み物等飲みながらゆっくりと落ち着けるよう話を聞くなどの配慮をしている。また、居室の温度、湿度管理もしており快適に過ごせるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬前、個別の用法、用量を確認した後服薬支援をするようにしている。間違いがないよう何度も確認作業と服薬後の確認をリーダーが行うようにしている。薬の作用・副作用については各入居者別に内服薬一覧表を作成し、職員間でいつでも共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたんでいたり、料理の下ごしらえを手伝っていただいたりする等、個々の得意な事に対してさりげなくアプローチをかけ、その場その場で役割を持っていただき、ご本人が気持ちよくお手伝いして頂けるような状況や環境の支援をしている。また、天気の良い日には外に散歩に出かける等の支援もしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日散歩や買い物、ドライブなど外出の支援を行なっている。また、季節ごとに四季を味わえる場所(花見、初詣、会式等)への外出支援も行なっている。道中ご本人の馴染みの場所(自宅周辺や馴染みの店)の道を通るなどもしている。	散歩や買い物に、ほぼ毎日のように出掛けられている。車椅子使用の人も外気に触れるよう努めて声掛けをして散歩に出ている。また、小学校の運動会の見学や花見、七夕に神社に行くなど、様々な外出支援がなされている。	

【事業所】グループホームあがら花まる ユニット名:花まる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	食材の買い物に同行したり、近隣の和菓子屋に買い物に行くなど、ご本人の希望に応じ、自身で所持しているお金でお支払いをしている。また、所持しているお金を自身で使える様な支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で電話で話したり、本人宛の手紙を渡したりしている。また手紙の返信は代筆等いりのであればいつでもするということを伝えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音や光が入らないようブラインドを設置したり、昔の馴染みある音楽をかけるなどして、居心地の良い空間作りに取り組んでいる。入居者様と共同で製作した貼り絵も飾っています。また、季節折々の花を飾ったり、生け花と一緒にしています。	太い梁がむき出しの高い天井と明るい採光の居間兼食堂には、TVの音も邪魔にならず、各々愛用のクッションをイスに置き、くつろいでいる。畳の間もあるが活用されている様には見えない。	居間兼食堂の一角には高い段差のある畳敷きの場所があるが、活用されていないようである。人の声を聞きながらゆっくりとくつろげる場となるよう工夫されたい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの位置を工夫し、気の合う方同士でお話ができるような配置にしている。たたみコーナーも利用して柔軟に対応している。各利用者様は自室にて個人の時間を過ごしていただいています。また、玄関先のベンチに座り気分転換等に利用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、入所前にご家族にご説明した上で、以前使用していた物、思い出の深いもの等できるだけ持って来ていただくようしている。(タンス、時計、写真、椅子等)また、ご本人からも話を聞いた中で、ご家族に持ってきていただいたりもしている。	部屋の入り口には、お気に入りの花輪や表札が掲げられている。自宅で長い間使用していた愛用のタンスなどが置かれたり、散歩の途中で自宅に立ち寄り品物を持参してくる等、居心地良く過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの能力に合わせた支援を心がけている。また、失敗があった際も混乱されないよう落ち着いた対応をとるよう心がけている。		